

## 4. 策定部会ワークショップでの検討内容

策定部会名簿（五十音順、敬称略）	
町ホームページや各種機関、団体を通して参加いただいた町民	
愛澤 麻衣子 / 岩淵 百合 / 大竹 隆男 / 川島 敬章 / 菊地 新六 /	
桑名 誠 / 塩生 渉 / 高橋 一成 / 田沢 友伸 / 藤 雄一郎 /	
滑田 崇志 / 星 善光 / 室井 実 / 湯田 拓巳 / 渡部 教彦 /	
渡部 政昭 / 渡部 雅俊 / 渡部 裕太	

### ■生活環境部会の検討のまとめ

目標の柱 (案)	きれいな水が育む誰もが輝くまちづくり 元気の行き交う安心と助け合いのまちづくり
目指す姿 (目標)の アイデア	<p><b>水</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「水」をキーワードに。日本一の水道水</li> <li>美しい川へ</li> <li>安全な水道水の安定供給</li> <li>合併浄化槽への交換、汚水処理の普及</li> <li>ごみ減量・地球温暖化対策</li> <li>食品ロス削減、不法投棄ゼロ、リサイクル率アップ</li> <li>町の CO2 排出量削減、エコカー登録</li> </ul> <p><b>自然環境の保全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外来生物の減少</li> <li>豊かな自然アピール</li> <li>自然をいかした仕事の場、田畑や別荘のシェア</li> <li>小水力発電、雪のエネルギー利用、森林資源の熟利用</li> </ul> <p><b>高齢者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が中心の新しいコミュニティの創造</li> <li>生涯現役の地域づくり、活動場所づくり</li> <li>若者と高齢者の交流の場</li> <li>介護予防で元気な高齢が増える</li> <li>一人暮らし高齢者の見守りシステム</li> </ul> <p><b>医療</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に歩く習慣づけ(意識&amp;工口意識)</li> <li>医療費負担、医療制度の活用の不十分さが課題</li> </ul> <p><b>子育て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人親世帯でも安心して子育てできる</li> <li>地域ぐるみの子育て環境づくりで安心して仕事ができる親の支援</li> <li>保育所 子育て家庭の支援</li> <li>子ども食堂 かけ込み寺</li> </ul> <p><b>公共交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利便性の高い公共交通体系、必要ときに利用できる公共交通</li> <li>人を運ぶ、物を運ぶ、金が回る仕組み</li> </ul> <p><b>防災</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化が進む中で地域での備えや見守りが必要</li> </ul>
検討の まとめ	<p>豊かな自然や水によって、町民が健康に過ごせるよう、全町をあげて環境保全に取り組む必要がある。</p> <p>また、町民一人ひとりが健康で、安全で安心して快適に暮らすことを町全体で共有することが重要である。そのほか一人暮らし高齢者や子ども、若者などの居場所を地域でつくることも求められる。</p> <p>そのため、公共交通や医療、水道などの生活基盤の整備・拡充、地域コミュニティの構築による防災・防犯などを通して、誰もが輝き、元気の行き交う安心と助け合いのまちづくりをする必要がある。</p>

## ■農林部会、商工観光部会の検討のまとめ

<b>目標の柱 (案)</b>	<b>南会津の魅力と活力をふくらませる 農林業の好循環を！ 内外の消費を刺激する持続可能なまちづくり 地域資源をいかした“外貨”の獲得</b>		
<b>目指す姿 (目標)の アイデア</b>	<b>モノ(農林業)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>高品質でおいしい農産物の安定供給</li> </ul> <b>地域(農林業)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>優良農地の確保</li> <li>地域と環境の保全</li> <li>森林資源利用</li> </ul> <b>金(農林業)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営の安定</li> <li>販売額の向上</li> </ul> <b>PR(農林業)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>知名度の向上</li> <li>農業の良さのPR</li> <li>南会津のオリジナリティーの発揮</li> <li>負のイメージの払拭(肉体労働、やりがい)</li> </ul>	<b>人</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の担い手の育成、(将来にわたって)農業をやってくれる人、意欲のある人の発掘</li> <li>研修制度の充実</li> <li>コーディネーターの育成・確保、資源と市場ニーズとのコーディネート</li> <li>販売戦略</li> </ul> <b>内外の消費の刺激(商工・観光)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域内消費の循環、地元にお金の落ちる仕組みづくり</li> <li>後継者の育成</li> <li>就労の場の確保、企業誘致</li> <li>にぎわいのある商店街</li> <li>定住支援</li> <li>町民に対する支援</li> </ul>	<b>“外貨”の獲得(商工・観光)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の充実</li> <li>人の流れをつくる</li> <li>教育旅行、都市交流</li> <li>人材育成</li> <li>情報発信</li> <li>6次化商品の開発</li> <li>イベント</li> </ul> <b>全般(商工・観光)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>何度も来たくなるまち</li> <li>自然の活用、伝統文化の活用、観光資源の活用</li> <li>地域資源の組み合わせ、ストーリーづくり</li> </ul>
<b>検討の まとめ</b>	<p>現在悪循環に陥っている農業・林業を好循環に持っていくためには、いかに「儲け」を生み出し、地域が潤い、人が活性化し、良い物を作り、全国へのPRにつなげていけるかが大事である。好循環をまわすのは人であり、まずは人材の確保・育成からはじめ、物・PR・お金・地域に良い効果を波及させる必要がある。</p> <p>本町には就労の場が少ないほか、商店街も店が少なく活気がない現状を打破するため、商工業や観光で町内外の消費を刺激し、町内の経済を循環させていく必要がある。また、自然環境や伝統文化など、これまでの本町の基盤をつくってきた資源に加え、地域にある資源を改めて深掘りするとともに、それらをつなぎ合わせてストーリー化して発信することによって、観光、教育旅行、移住など、外から人を呼び込む必要があり、このことが人、物、お金、地域資源の循環につながる。</p>		

## ■建設部会の検討のまとめ

<b>目標の柱 (案)</b>	<b>みんなが楽しめて魅力あるまちづくり 道路インフラの整備・充実で快適な住環境を構築する</b>		
<b>目指す姿 (目標)の アイデア</b>	<b>全体</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>10年後だけでなく、長期的な未来を見据えた南会津町の姿の検討</li> </ul> <b>楽しめるまち</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>SLを置く場所を変えてみては</li> <li>需要がニッチな商店を後押し</li> <li>ロボットと共存するまち</li> <li>昭和レトロのまち並みを逆にいかす</li> <li>仮想空間を楽しめる場所 VRの活用</li> <li>金を稼げる施設、農業体験施設、目玉となるような施設</li> </ul>	<b>魅力あるまち</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔の風景と今の風景の比較</li> <li>若い人が注目する景観づくり</li> <li>移動による病院、子育ての負担軽減</li> <li>お金持ちが住みたくなるまち、高級住宅街</li> </ul> <b>道路インフラ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の都市へのアクセス</li> <li>会津縦貫道路との結合</li> <li>地域高規格道路</li> <li>自動運転</li> </ul>	<b>快適な住環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>免許返納も増えてきている</li> <li>道路の維持</li> <li>除雪の費用、助け合う除雪体制</li> <li>雪が積もらないまち、小エネルギーで雪を消せる。</li> <li>高機能住宅、コンパクトシティの考え</li> <li>公共交通の整備、モビリティデマンドタクシー</li> <li>クリーンエネルギーの車を導入</li> </ul>
<b>検討の まとめ</b>	<p>本町が有している自然の原風景や昭和レトロなまち並みなど今あるものをいかしながら、VRのような最新技術を用いた、誰もが楽しめるような魅力あるまちづくりを進める必要がある。また、道路や景観など目に見えるものをさらに整備・充実し、快適な住環境を構築する必要がある。</p> <p>また、自動運転の利用や縦貫道の接続により、誰もが自由に行き来できれば、世代間交流が進み、快適な社会に近づくのではないかと。</p> <p>そのほか、人が来たくなるような目玉となる施設をつくり、PRできると良い。</p>		

## ■教育部会の検討のまとめ

<b>目標の柱 (案)</b>	<b>まちを知り まちを愛し まちを楽しむ 世代を超えた”共育”のまちづくり ふるさとに誇りを持ち 世代をつなぐ”共育”のまちづくり 郷土を愛し 世代を超えてともに学ぶまちづくり</b>		
<b>目指す姿 (目標)の アイデア</b>	<u>学校教育</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域みんなで子どもを育てていく形が理想</li> <li>インターネットの積極的活用、オンライン(インターネット)で教育環境変化</li> <li>オープンな教育が必要</li> <li>職場体験(キャリア教育)</li> <li>コミュニティスクール</li> </ul> <u>学校外の子どもの居場所</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>公営塾の開設</li> <li>子ども食堂⇄リモートワーク</li> </ul>	<u>地域とのつながり</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合学習への地域住民の積極的な参加</li> <li>地域の人との交流・接点を増やす⇒積極的な交流</li> <li>縦割イベント</li> <li>世代間交流</li> <li>みんなが一人一芸</li> <li>地域と協働で子どもを育成する</li> <li>PTA 活動</li> </ul> <u>文化財の保全・活用</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保護 埋蔵文化財の発掘</li> <li>文化財にこだわらず地域資源の掘り起こし・地域行事</li> <li>伝統文化と伝統行事の継承</li> </ul>	<u>郷土を学ぶ機会</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の中で郷土愛を育む→育まれた郷土愛が広がる→自分の家庭も育つ→地域とつながるといふ流れが理想</li> <li>”地元学”、南会津学、</li> <li>郷土を学ぶ機会の拡充</li> <li>方言の資料</li> </ul> <u>社会教育</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の文化財、伝統芸能、スポーツ以外にも、地域資源を掘り起こすことが重要</li> <li>幅広い世代がともに学べる機会の拡充</li> <li>家庭教育講座(出前講座)</li> <li>スポーツ行事 陸上 ソフト 野球</li> </ul>
<b>検討の まとめ</b>	<p>人口の流出を食い止めるには地域愛を育む必要があり、世代を超えてともに育つという意味で“共育”が今後必要となる。</p> <p>教育は人づくり、地域づくりになる。そのため、町民みんながともに育ち、生涯学習を進めていくのが理想である。</p> <p>そのためには、家庭内で郷土愛を育み、地域みんなで子どもを育てていくほか、地域資源の掘り起こしや地域行事継続による世代間交流も重要である。</p>		

## ■行財政部会の検討のまとめ

<b>目標の柱 (案)</b>	<b>誰もが主役で誰もがつながる未来を見据えた行政</b>		
<b>目指す姿 (目標)の アイデア</b>	<u>行政運営</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政手続の簡素化・スリム化(人件費・負担削減、民間への委託)</li> <li>「ムダ」を減らしていく</li> <li>コンパクトシティの検討</li> </ul> <u>情報発信</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の共有・開かれた行政情報発信</li> <li>「見える行政」。分かりやすい情報開示</li> </ul> <u>広域連携</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>同一経済圏の意識、近隣行政との連携</li> </ul>	<u>町民協働・地域活動・交流</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>支所の活躍・元気で明るい支所</li> <li>町民を巻き込んだ行財政、町民と行政のつながり</li> <li>国際交流</li> <li>声をあげる場</li> <li>交流人口に力を入れる</li> <li>世代を超えた交流や集落間の連携交流</li> </ul> <u>移住定住に向けたデジタル化</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT・IOT・5G化</li> <li>100歳(高齢者)のインターネット利用</li> <li>手続き・申請のオンライン化</li> <li>電子媒体講座(高齢者向き)</li> </ul>	<u>仕事づくり・産業</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>マッチング</li> <li>財政健全→持続可能</li> <li>働き口の確保→所得の増加</li> <li>建設業・農業・林業などへの女性の進出</li> <li>産業のAI化</li> </ul> <u>人材育成</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域全体での子育て・介護</li> <li>シルバー人材をゴールド人材へ</li> <li>年齢の概念に「待った」</li> <li>人材のネットワーク化</li> <li>女性活躍</li> </ul>
<b>検討の まとめ</b>	<p>本町では人口減少が進んでいるが、人手不足は情報技術の進展(デジタル化)により補うことができる。老若男女問わず町民みんなが主役となり、様々な機会・方法で町内外とつながり、町民と行政が一体となって同じ未来を見据えてまちづくりに取組んでいく必要がある。</p> <p>また、町民が主役となるには、デジタル化や情報発信などの環境・仕組みづくりや活躍できる機会を創ることも必要である。</p>		